

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)		
所在地	〒028-0838 盛岡市津志田中央2-3-20		
自己評価作成日	令和7年6月15日	評価結果市町村受理日	令和7年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当荘はキッチンを境にしてユニットがつながっており、職員や利用者様が交流しやすい環境になっている。朝礼など両ユニットが情報交換をしながら業務を行っている。またコロナ禍以降は面会や外出の機会が大幅に減り認知症の進行に比例して介護量も増え、かかりつけ医や訪問看護にこれまで以上に助言を頂き医療連携にも心掛けている。尚、それに伴いご家族様とは連携を密に情報共有し慣れ親しんだ物を持参頂いたり、通院対応など外出時には協力頂いている。更に荘の家族菜園で野菜を収穫して利用者様に季節感を楽しんで頂くよう工夫を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線の南インター入口交差点近くの住宅地に鉄筋造りのしっかりした建物で立地された2ユニットのグループホームである。「秋桜」、「鈴蘭」の両ユニットとも利用者の多くが要介護3以下で、職員は、利用者が自分の思いや希望を大切にしながら自立心を持って生活できるよう支援している。両ユニットは、玄関ホールやキッチンで繋がっており、合同での行事の取り組みなどを通じて利用者同士が交流する機会も多い。「秋桜」ユニットでは、欠員となっている職員の補充採用が進まず、利用者一人ひとりに向き合う時間が少なくなっており、また、外出支援も十分に組み合わせていないとしているが、管理者とケアマネは、「鈴蘭」ユニットの管理者・ケアマネとグループホーム運営や介護支援の考え方を共有しながら職員を先導し、両ユニットの職員同士も連携、協力して日々の介護支援に当たっている。利用者や職員が談笑する様子も見られ、グループホーム全体は明るく、フレンドリーな雰囲気に包まれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域とのつながりを大切に利用者様、当荘関係者が「和」になることを目指した理念を日々共有出来るよう全体ミーティングにて唱和し「共有」や振り返りに活かしている。	現在の両ユニットの管理者は、法人(会社)の理念等がいつ誰により定められたか承知していないが、開設当初からのものではないかとしている。グループホームとして定めている理念(職員としての介護支援の心構え)を両ユニットの合同ミーティングで毎回唱和し、介護支援者としての意識を高めるよう努めている。	ミーティングで理念等を唱和し、意識の共有と自らの仕事の振り返りを行っていますが、グループホームの理念に掲げる6つのキーワード「和・輪・笑・私・話・技」をもとに、職員と利用者が日々一緒に取り組むことのできる生活目標を具体的に定め、一人ひとりのケアプランにも反映させながら、理念の実践に取り組むことが期待されます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ひばり自治会に加入している。運営推進協議会をはじめ、自治会長や児童民生委員、地域包括支援センターなど資源の活用に取り組んでいる。	町内会(ひばり自治会)との交流により地域と繋がりを持ってきたが、運営推進会議のメンバーでもある自治会長が病気になり、現在は自治会との交流の機会は減少している。同じく運営推進会議メンバーの傾聴ボランティア以外の地域ボランティアについても高齢化が進み、最近は交流が減ってきている。このような中でも、地域の子ども会や児童センターの子ども達が来訪し、歌や踊りで利用者と交流してくれる。地域の方々との繋がりをコロナ以前に回復するよう取り組みたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年「介護の日」・「家族会」と言った行事を通して認知症への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。(コロナ禍で実施出来ず)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回実施し時々の議題やサービスの評価、地域とのつながりについて話し合いファイルにまとめて職員と共有するよう努めてサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、自治会長が病欠になっているが、警察、消防関係者、傾聴ボランティアも含め、多様なメンバーで構成されている。利用者の状況、行事計画、事故やヒヤハット事例、身体拘束廃止委員会の活動、感染症対策等、グループホームの運営状況を報告し、理解と協力を得ている。今後は、これらの報告等に加え、具体的な取り組み目標や運営課題をテーマに取り上げ、外部の意見や提案を得るようにしたいとしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	近年は市職員の方にも運営推進協議会に参加していただくなど適正な運営、サービスの向上にむけたご指導をいただいている。	市の介護保険課とは、担当者に運営推進会議のメンバーとして毎回出席してもらって、主としてメールのやり取りで連携を図っており、制度の不明点や疑問点を適時に照会できる関係にある。現在、職員不足解消に向け、求人等の情報提供や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	緊急時以外の身体拘束をしないケアを実施し、利用者様の「尊厳」「安心」の配慮に取り組んでいる。また運営推進協議会での身体拘束廃止に関する委員会活動内容を職員にも情報をまとめ共有している。	両ユニット合同で職員全員による「身体拘束適正委員会」を3か月毎に開催し、緊急やむを得ない拘束の要件、身体拘束や行動制限に当たる行為等を確認、共有しながら、身体拘束ゼロのケアを実践している。また、委員会の開催に合わせ、年2回は「言葉による拘束」への配慮や尊厳のあるケア等について研修を行っている。	身体拘束の適正化に向けたグループホームの基本的姿勢や対応の考え方を「重要事項説明書」に記載し、利用開始時に利用者、家族に明確に示すとともに、機会ある毎に、家族に説明し、理解と協力を得ていくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待を防止し利用者様の行動を制限しないよう他ユニットと連携をし見前交番や盛岡南消防署との連携にも努め万が一のエスケープにも備えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	地域会議での学習や研修等で共有し活かしている。利用者様やご家族のニーズに応じ相談や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には利用者様や家族様に理解していただけるよう説明し速やかな入居を支援している。また退居時の支援やその後の相談など可能な範囲での支援に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の苦言や言葉にならない不満を汲み取り最善の支援について協議し取組にいかしている。また、運営推進協議会や家族会等の意見も参考にしている。	利用者からは、外出の要望が多く出されるが、職員体制等から十分応えられていない状況にある。体調、精神面、受診等の状況をまとめた「健康相談表」に居室担当者のコメントを添え、毎月、お便りとして家族に送付している。運営推進会議に出席の家族代表からは、職員と家族の繋がりを大切にする取り組みを考えて欲しいとの要望があり、まずは、お便りの内容を充実したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り、ミーティング、カンファレンスなどを通して出た意見を業務報告、全体会議等で共有し協議を行いより良い支援活動に取り組むよう努めている。	各ユニット会議や月1回の全体会議では、職員から要望や提案がよく出され、水道の排水溝の修理や西日対策など、自分達で改善できることに積極的に取り組んでいる。代表者(社長)は、月1回の両ユニット合同の全体会議に出席し、職員の意見を聴きながら、勤務の状況や健康保持等に気配りや配慮をしてくれる。両ユニットの管理者は、年1回、職員と個別面談の機会を設け、個々の要望や仕事上の悩みなどを把握し、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	やりがいを持って働けるよう職場環境作りの為、日々の業務の中の課題を話し合い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職員にはOJT振り返りシートを活用して出来た事出来なかった事を見える化しその後の指導に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	訪問看護事業所看護師と提携し情報交換に努め、より良いサービス提携をするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前や申し込み時から当荘への見学の機会を設け、ご本人様からの思いや希望を汲み取れるように努め、また、面談や何気ない会話から利用者様が「何を求めているか」把握出来るよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や見学時にご家族様のニーズを汲み取り要望や不安等事例もふまえて情報共有出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様、ご本人様のニーズを見極めご本人様にとっての最善のアドバイスを心掛けている。また必要に応じて他のサービスの情報提供も出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様が出来る事を見極め、その方が出来るお手伝いや荘内の仕事を一緒に行い利用者様一人ひとりの個性を活かし充実した日常生活を送れるよう支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様の状況に変化があった場合やご利用者様からの「連絡がしたい」等希望があった際にはご家族様と連絡を取り合い情報を共有し、協力して行ける関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	(コロナ禍前は)面会や外出、外泊等ご本人の希望を少しでも実現できるよう努めていた。現在はLINEのビデオ通話等を利用し関係性の維持に努めている。	家族以外の友人、知人との交流は少なくなったが、スマホのラインやメールで友人とやり取りしている男性利用者もいる。両ユニットは左右対称で玄関ホールやスタッフルームを行き来できるようになっており、合同の行事もあることから、入居後のお馴染みさんとして相互に交流している。また、定期に来所してくれる訪問マッサージ師や美容師とも馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お手伝いや日常の創作活動を通して利用者様同士の関わり合いを大切にした支援を行い利用者様同士がコミュニケーションを取りやすい環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様には次の受け入れ先の支援後でも相談可能である事をお伝えしている。また必要に応じて情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の気持ちに寄り添い、希望を可能な範囲で具体化し自己実現へ導いて行けるよう努めている。	利用者の多くは自ら思いや意向を伝えてくれる。意思表示の難しい人には、自分で決められるよう選択してもらえる問いかけを行っている。本人の意向や希望を大切にしながら、野菜づくりと収穫、洗濯物の整理、新聞の管理等、役割を持って生活してもらえよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様や関係機関の情報提供を最良の支援に活かせるよう努めている。ご本人とのコミュニケーションや日常生活の過ごし方等で生活スタイルをなるべく把握出来るようつとめている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活の利用者様の過ごし方や身体の調子を良く観察し、ご本人様や家族様の御意向や主治医の意見等を取りまとめて、介護支援専門員と一緒にカンファレンスで介護計画を作成していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活より汲み取られた利用者様の御意向や家族様からの意向、主治医の意見等から見えてきた課題、提案をカンファレンスで協議し介護支援専門員が中心に介護計画の作成と見直しにとりこんでいる。	計画策定担当者が開始時に事前資料や収集した情報により作成した暫定のケアプランをもとに利用者の状況や家族の意向も再確認しながら見直しを行い、正式のプランとしている。毎月、職員会議に引き続きカンファレンス会議を開き、計画作成担当者が作成するモニタリング資料によりプランの実践状況について職員で話し合い、評価を行っている。ケアプランは、職員に加え家族の役割も明記しており、短期目標3ヵ月、長期目標6ヵ月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活における「気づき」を個別の「ケース記録」「モニタリング記録」等に記録しその都度職員間で意見を出し合い、カンファレンスで協議して介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	「予防」から「支援」「介助」「介護」と個々の利用者様の特性や状態に応じた多機能支援、両ユニット間での協力で行う行事や日常生活支援、両ユニット間で行う行事や日常生活支援、都南地区の地域での利便性を活かした支援など柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行事を通じて民生委員の方、ボランティアの皆様との交流を図り充実した日々を送っていただけるよう支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様や利用者様のご希望に添った受診支援をしている。状況に応じて複数箇所の受診の支援を行っている。	入居前のかかりつけ医又はグループホームの協力医を受診している利用者は半々になっている。訪問診療により受診している人も2人いる。通院は家族の付き添いをお願いしているが、職員の同行が増えて来ており、グループホームでの生活の様子や体調を伝えるなど主治医との連携を密にしている。眼科、皮膚科等の特定診療の受診も職員が同行している。週1回来所する訪問看護ステーションの看護師から利用者の体調管理について助言や指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様が精神的、身体的に気にかけている事を職場内の准看護師に相談。また、週1回の訪問看護師からもアドバイスを受けて対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供、可能な範囲での職員による面会を等して早期退院に向けた支援を行っている。また、かかりつけ医との情報交換を行い、出来るだけ速やかに入院、治療出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様が入院や治療を必要とする状態となった際にはそれに対するご家族やご本人の考え方を尊重しその支援のあり方に日常的に取り組んでいる。	グループホームの職員体制から重度化や終末期への対応が難しいとしており、重度化が進み既存設備での対応が難しくなった場合、医療的ケアが必要になった場合、さらには看取りの時期が近づいてきた場合には、病院や特養等の施設への入院、入所を支援することを利用開始時に本人、家族に説明し、理解を得ている。現在は重度化、終末期の対象となる利用者はいないが、定期的に家族と話し合い、状況の変化に対応して適切に支援できるよう取り組んでいる。今後、利用者の高齢化、重度化への対応に向け、ターミナルケアの研修を充実させたいとしている。	

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時には看護師や施設長に報告し、出来る範囲の応急処置に努めている。状態によっては救急車の手配、家族様への連絡を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害に対しての定期的な訓練を実施し、マニュアルに基づいた行動がとれるよう努めている。市及び消防署からの指示を順守しそれぞれ連携を取りながら取組を実施している。	ユニット合同で夜間想定も含め春秋の2回の火災避難訓練の他、水害想定避難訓練を実施し、消防署から助言、指導も得ている。お風呂(灯油)以外はオール電化で火を使うことはない。スプリンクラーも設置している。水害の際は2階の会議室等への垂直避難を基本としている。職員は訓練を通じて災害時の避難方法を共有している。地域、近隣への協力依頼は特に行っていない。3日分の水、米、副菜等を備蓄している。	年2回の定期訓練に加え月1回は運動も兼ねたミニ避難訓練を実施することや、避難場所に指定されている地域児童館、公民館への誘導避難の機会を設けることを期待します。また、災害等有事の際には、近隣の協力を必要とする場合もあり、地域や近隣との日常的な協力、連携のあり方について運営推進会議で話し合うことが望まれるところです。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに適切と思われる声掛けやコミュニケーション、接遇に心掛けている。また、個人情報に関してはご家族と確認を行い適切に管理している。	職員は、何度も繰り返すお話を「傾聴する」ことを心がけ、利用者の希望ややりたいことを受容し、支援することを通じて一人ひとりの尊厳を大切にしている。また、本人が嫌がる話題は皆の前に持ち出さないよう気配りをしている。個人情報はパソコン管理とし、USBでの外部への持ち出しは禁止としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段から利用者様との会話や生活支援を通じて本人の希望や意見を汲み取り必要以上に手を出しすぎないよう気を付け利用者様の自己実現へ向け、日々より良いケアを心掛けて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な範囲で一人ひとりの生活ペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の気温に合わせた衣類を着ていただけるよう支援している。また、訪問床屋を活用しご本人の希望する整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備等出来る事をさせていただいている。また、当番表を活用し皆様にお手伝いしていただけるよう工夫している。	献立は、食材納入業者が1ヵ月分を作成し、ユニット合同で当番に当たる職員が協力して3食分を調理している。食事介助を必要とする利用者はおらず、3、4人で一つのテーブルを囲み職員も一緒に加わって楽しい食事になっている。敬老会や誕生会には、外注の特別食やケーキを用意している。お手伝いは、ユニット毎に、3、4人が自発的に食器拭きや後片付けを手伝っており、「当番表」の作成は止めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に合った食事、水分摂取量を日々確認し対応している。食事量の少ない方に対しては主治医等とも相談し栄養補助飲料等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日の口腔ケアを支援し、清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診の検討、通院や往診治療支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンに合ったトイレの声掛けを行い夜間はポータブルトイレも使用するなど可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。	声がけ誘導の人もいるが、車椅子利用の1名を除き、日中、夜間ともトイレを使用している。両ユニットに2名ずつ布パンツの人がおり、他の人はリハビリパンツとパットを併用している。これからも失禁を減らしてトイレで自力排泄できるよう支援に力を入れたいとしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者様に合った水分補給の仕方の検討を行い、出来るだけ水分を取って頂く事で便秘の予防に努めている。また、調理には野菜やキノコ類など食物繊維の多い食材を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者様にあった入浴の仕方を尊重しながら楽しんでいただけるよう支援する。	週2、3回昼食後の入浴としている。車椅子の1名は2名で介助し、シャワー浴になっている。背中洗いや洗髪の手伝いなど、一部介助と見守りによる支援を行っている。本人のペースでゆとりを持って入浴してもらうようにしており、おしゃべりを通じ、職員とのコミュニケーションを深める時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間に落ち着いて睡眠出来るよう日中の活動を工夫し支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報はケース記録や通院記録、連絡ノート等で情報を共有している。薬の服薬時は声を出して他の職員に確認してもらい、誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の入居以前の生活歴を把握し張り合いのある生活支援に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様と職員と一緒に散歩したり、利用者様とご家族様や馴染みの方との外出にも気軽に楽しんで出かけられるように支援を行う。	欠員後、職員を補充できずにおり、両ユニットとも、日常的な外出の機会がコロナ禍前に比べ少なくなっている。お花見や紅葉の時期のドライブは実施している。家族の協力も得ながら、外出の機会を多く設けられるようにしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の持参については利用者様が直接管理することがないので、ご家族様の協力のもと必要な物は購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	必要時には事務所の電話を利用いただき、家族様と会話を楽しんでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のお花、利用者様が写っている写真、創作品を飾り、天窓からの自然の光、中庭に面した窓からの菜園の風景を楽しんでいただいている。また空気清浄器や加湿器等居心地の良い環境作りをしている。	天窓からの陽光で明るく、清潔な共用空間になっており、スタッフルームやキッチンを挟んで、両ユニットが向い合せになっており、自由に訪問することができる。それぞれのホールには、4脚のテーブルにカラフルな椅子が配置され、利用者は定位置でゆったりと過ごしている。利用者は、玄関前のポーチの両側の家庭菜園で野菜づくりを行ったり、ホールや廊下に職員と一緒に季節ごとにバージョンを変えた飾りつけを行って、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニット毎のホールの自分の席の他にもソファや他のユニットへの移動も自由に行っている。お手伝いやレクリエーション活動を通して利用者様同士の会話が弾む機会も見られる。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 (秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている。	ご家族様の協力のもと、利用者様の大切な物や 馴染みのあるものを持ち込んでいただき、利用 者様が安心出来る空間作りを支援する。	ベッド、クローゼット、さらにクローゼットの隣には 自由にセットを変えられる4、5段の整理棚が備え 付けられ、利用者は、それぞれ持ち込みの写真 や小物、作品等を飾り、自分の好みに合った部 屋づくりを工夫している。自室の掃除を職員と一 緒に行っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	利用者様が出来る事を見極めてできない所にシル バーカーや手すりを使用していただき、出来る だけ自立した生活を送っていただけるよう支援す る。		